

研究課題名	眼内レンズ偏位・落下の多施設共同研究
研究機関名および研究責任者	さいたま赤十字病院 眼科部長 石井 清
研究代表施設および代表研究者	広島大学 医療のためのテクノロジーとデザインシンキング講座 教授 田淵仁志
研究期間	2020年 10月 15日～ 2023年 4月 30日
研究の目的と意義	高齢化社会の到来により白内障手術件数が近年では年間150万件を超えている。術後合併症として術後のIOL偏位・落下がある。IOL偏位が大きくなれば視機能障害を自覚し、さらに慢性炎症から続発緑内障に至ることもあり、硝子体内に落下する場合もある。このような場合、IOL2次挿入術（IOL縫着術、IOL強膜内固定術）が必要になる。過去の報告ではIOL偏位・落下の発症頻度は0.05%～3.0%と報告により大きく異なる。IOL挿入が標準術式になっている現在、IOL偏位・落下が増加しているが、これまでは単一施設内で検討されることがほとんどであった。今回我々は、全国的な多施設共同研究としてIOL偏位・落下症例を前向きに調査し、その危険因子および発生頻度を把握することを目的とする。
研究内容	上記期間中に眼内レンズ偏位・落下を認めたすべての患者を対象とする。研究対象者基本情報として手術日、年齢、性別、術眼、IOL挿入期間、IOL固定状態、IOL偏位・落下グレード、IOL種類、IOLモデル名、CTR挿入の有無、術前矯正視力、危険因子として落屑症候群の有無、硝子体手術の既往、外傷の既往、ぶどう膜炎の有無、強度近視の有無、眼軸長、網膜色素変性症の有無、眼擦過癖の有無、眼合併症、IOL摘出・2次挿入として切開創、IOL摘出の有無、IOL切断の有無、硝子体手術併用の有無、IOL2次挿入法、術中・術後合併症、術後矯正視力を利用する。対象患者より取得した上記診療情報を用いる、介入・侵襲を伴わない前向き観察研究。
個人情報の取り扱い	研究実施に係る情報を取り扱う際には、予め患者の個人情報とは無関係な番号を付して情報を管理する。患者の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮する。
問い合わせ先 (拒否等の受付窓口)	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 眼科部長 氏名：石井 清 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 電話：048-852-1111